

知事記者会見の概要

日 時：令和8年1月5日（月） 10:30～11:03

場 所：502会議室

出席記者：9名、テレビカメラ4台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 令和8年 年頭のあいさつ

フリー質問

- (1) 今年の抱負について
- (2) インバウンドへの対応について
- (3) 米国によるベネズエラ軍事作戦について
- (4) 「ゆきまんてん」について
- (5) 丙午（ひのえうま）について
- (6) 空港の機能強化について

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆発表事項

知事

県民の皆さん、新年あけましておめでとうございます。

令和8年、「八」は末広がりの字であります。末広がりの新しい年がスタートしました。

今年の元旦は、雪がチラリホラリと舞い降りまして、山形らしいお正月になったと思います。皆さんも清々しい気持ちで新年を迎えたことだと思います。

今年は午年うまどしであります。

馬は遠くを見渡す目と力強い走力を持ち、古来から「行動力」や「前進」、「飛躍」を象徴しているといわれています。特に今年は60年に一度巡ってくる「丙午」ひのえうまの年になります。

丙は明るい火、午は太陽が最も高く昇る「正午」の時間を表しますので、この組み合わせは古来より「明るく情熱的に物事を進める年」として受け止められてきました。エネルギーに満ちたパワフルな1年となりそうです。

また、馬は古くから神様の使いや、家族を守る存在とされ、縁起の良い動物とされてきました。躍動や成功、勝負運の象徴ともされ、努力が実を結ぶ年とも言われております。

新しい挑戦や目標達成に最適な最強の開運年とされています。

「午」の字には「うまくいく」という意味合いもありますので、ぜひ、皆さんも新しいことに挑戦されてみてはいかがでしょうか。

そしてですね、「丙午」の年には、出生数が減少するというようなことが、過去ずっと続いたと聞いてますけれども、決してそういう迷信は信じないほうが良いんじゃないかなと私は個人的に思っております。

むしろですね、現在ではパワーのある、リーダーシップに恵まれた人が生まれるというようなこともいわれておりますので、ぜひ、迷信にとらわれないでいただきたいなというふうに思っております。

また、今年は明治9年に現在の山形県が成立してから、ちょうど150周年にあたります。幾多の困難に立ち向かい、この山形県の礎を築いてくれた先人たちの功績に思いを馳せながら、各界・市町村・県民の皆様と一緒にになって、更なる挑戦を続け、希望あふれる山形県の未来へと、馬のように力強く前進してまいりたいと考えております。

さて、今年のトピックスとしましては、昨年11月の東京2025デフリンピックでの本県出身選手の大活躍も記憶に新しいところです。今年は、2月から3月にかけてミラノ・コルティナ2026オリンピック・パラリンピックが開催されます。

現時点では、山形中央高出身の森重もりしげ航わたる選手が見事2大会連続の代表入りを果たしておりますので、前回を上回る活躍を期待しているところです。そして、報道によりますと、旗手に選ばれそうだということですので、それも大変喜ばしく思っております。

そのほか、スキー競技を中心に本県ゆかりの選手たちが、代表入りを目指して頑張っています。すると聞いております。ぜひ、1人でも多くの方が代表入りしていただいて、世界中に勇気と感動、県民に元気と希望をもたらしていただきたいというふうに思っています。

そして本年4月には、いよいよ東北公益文化大学が公立大学として新たなスタートを切ります。若者の地元定着の促進に向けて、これまで以上に魅力的な大学となり、地域に有意義な人材を育成していくよう、庄内地域2市3町とともに、しっかりと取り組んでまいります。

それから、令和9年のデビューを控えた水稻新品種「ゆきまんてん」。これは、「雪若丸」を親に持ち、「はえぬき」のひ孫に当たる品種で、高温耐性と収量性に優れ、白く、大粒という特徴を持ったおいしいお米です。

デビュー前年の今年は、生産・流通販売などの関係者からご意見を伺いながら、振興方針を策定いたします。「雪のように白く、美しさ満点、笑顔満天のお米」であります

「ゆきまんてん」が、県民の皆様はもとより、広く全国の皆様、海外の皆様からも愛されるお米となるよう、生産や販売体制の整備に取り組んでまいります。

次に、山形新幹線米沢トンネル（仮称）につきましては、早期事業化の実現に向けて「山形新幹線米沢トンネル（仮称）整備スキーム検討会議」を設置したところであります。整備計画や整備スキーム案について今年度内に一定の取りまとめを行う予定としております。

この米沢トンネルは、山形県の発展に直結する、まさに「山形県の未来を拓く希望のトンネル」であると、かねてから申し上げてまいりました。

この会議で、トンネル整備の実現に向けて具体的な議論が始まったことは大きな一歩であると考えています。早期事業化の実現に向けた取組みをさらに進めてまいります。

山形空港と庄内空港につきましては、昨年11月に、滑走路延長を含めた空港の機能強化について議論を前に進めていく場として、「山形空港機能強化検討会議」と「庄内空港機能強化検討会議」を設置いたしました。

2つの検討会議では、地域のために両空港が果たすべき役割とその実現に向けて必要な空港機能強化の方向性について議論いただいており、それぞれの「空港将来ビジョン」を、令和8年度中に策定することを目指しているところです。

旺盛なインバウンド需要を最大限に取り込むとともに、空港のさらなる利用拡大を図るために、滑走路延長を含めた機能強化が不可欠でありますので、高速交通ネットワークの形成に向けた取組みをさらに前進させてまいります。

次に、新スポーツ施設につきましては、昨年開催した「山形県・山形市新スポーツ施設整備検討会議」におきまして、県の屋内スケート施設の方向性や、山形市による体育館・武道館機能を有する地域住民のためのスポーツ施設のイメージや方向性について、委員の皆様から御意見をいただいたところです。

屋内スケート施設ができますと、フィギュアスケートやカーリングなどもできるように

なりますので、子どもたちの夢の実現、郷土愛の醸成、若者・女性活躍の拡大などにつながるよう、引き続き、山形市と力を合わせて取り組んでいきたいと考えております。

また、県立博物館の移転整備に向けましても、「山形県新博物館基本構想検討会議」におきまして議論を深めていただいているところです。今年度末までの基本構想策定を目指すとともに、その策定後につきましても、さらなる検討を進めてまいります。

ここで、ツキノワグマについて申し上げます。県内における昨年のクマの目撃件数、人身被害の発生件数は、記録が残る昭和52年以降で最多となっており、まさに異常事態がありました。こうしたことから、これまで河川の藪の刈り払いや、県と県警が連携した「緊急鏡獵タスクフォース」派遣をはじめとする市町村等への支援、政府への緊急要望、「山形県版クマ被害対策パッケージ」の策定・実施など、重層的な取組みを展開してきたところです。

引き続き、県版クマ被害対策パッケージに掲げる施策の実効性がより高まるよう政府や市町村、関係機関等と連携を図りながら、内容の充実に努めるとともに、県民の安全・安心の確保に向けて、強い危機感を持って、総合的なクマ対策に取り組んでまいります。

さて、昨年10月には、世界的な有力旅行メディアの「ナショナルジオグラフィック」が「2026年に行くべき世界の旅行先25選」に日本から唯一、山形県を選出しました。

これは、本県の魅力が世界に認められた、言い換れば、世界が山形県の魅力を高く評価したものであります。

今年2026年は、さらなるインバウンド、いわゆる訪日客の拡大も期待されるところであります。日中関係の悪化など懸念材料もありますが、欧米からのお客様を増やす好機とも言えると思っております。

この度の選出を大きなチャンスと捉え、本県の魅力を県民の皆様とともに再認識しながら、国内外へ向けて発信するとともに、訪れた方々に満足していただけるよう、県内観光地の受け入れ体制整備を進めてまいります。

外国人の方々の視点に立ってみれば、県内観光地や案内板、飲食店のメニューなど、まだまだ多言語化されておりませんので、せっかく訪れてもさっぱり理解できず、不親切に映るようあります。オール山形で腰を据えてしっかりと取り組んでいく必要があると考えております。

ここまで今年のトピックスや、本県の重要課題・施策についてお話をしまいました。

改めて現下の状況を見ますと、少子高齢化を伴う人口減少の加速や、あらゆる分野における人手不足の深刻化、物価高騰の長期化、米国の通商政策による影響、米国といいますと、報道によると、最近行ったベネズエラに対する軍事作戦、これにつきましては世界中にどのような影響を及ぼしていくのか大変懸念されるところであります。また、頻発・激甚化する自然災害への対応、クマ被害対策や温暖化対策など、本県が直面する課題は、よ

り一層多様化・複雑化しております。

しかし、そうした中にありますても、決して後ろ向きにならず、各界、市町村、県民の皆様と一緒にになって、前向きに積極果敢に取り組んでいくことが重要であると考えております。

昨年12月に内閣府から公表された令和4年度の1人当たり県民所得は、本県が東北で1位となりました。ここ10年の実質県内総生産額や名目県内総生産額は、増加をしております。名目県内総生産額は、全国の平均を上回って増えているところです。

令和6年の農業産出額は、3,000億円を超えるました。令和5年の工業製品出荷額は、3兆3,000億円を超えるました。その中でも本県の半導体関連産業の出荷額は、全国4位です。その付加価値額は、全国1位となっております。

さらには、国土交通省から公表された関係人口、これは47都道府県中、本県が1位となっていましたし、都道府県単位のふるさと納税額は、本県が4年連続1位となっております。

これらはまさに、県民の皆様、市町村、各界、事業者の皆様などと、それぞれに、あるいは一緒にになって積極的に活動してきた成果であると考えております。

山形県の人口は減少していますが、経済は縮小しておりません。決して悲観することはないというふうに思っております。

物事をとらえる視点を、従来より少しだけ広く持ってみてはいかがでしょうか。

省内に住んでいる人は、外国人も含めると100万人を超えてます。その分、衣食住が必要でありますから、特に食べる食の需要は減っていないことになります。省内経済が縮小していないのは、外国人材の活用や省内居住といったことが一因になっているのではないかでしょうか。

もちろん、課題も相当ありますて、教育や文化など、共生社会の実現に向けて、県民の皆様や事業者の皆様と一緒にになって取り組んでいくことが必要と考えております。

それから、なによりも、女性や若者、障がい者も働きやすい職場環境づくりを、経済界の皆様と一緒にになって作っていくことが肝要であると思います。

移住にも力を入れなければなりません。子育て世代はもちろん、一人暮らしの方も大歓迎したいというふうに思います。

いずれにしましても、省内経済を縮小させない、維持・発展させるという強い意志を持って、広域連携や交流人口の拡大、関係人口の拡大などに取り組んでいくことが重要であります。

引き続き、「人口減少のスピード緩和並びに人口減少に対応できる県づくり」を最重要課題として推進するとともに、「県民のウェルビーイングの向上」、「省内経済の持続的な成長」、「安全・安心な地域づくり」に取り組み、「人と自然がいきいきと調和し、眞の豊かさと幸せを実感できる山形県」を実現してまいりたいと考えております。

以上、年頭にあたっての所感を申し上げました。

令和 8 年、2026 年が、県民の皆様にとりまして喜びと希望に満ち溢れた素晴らしい年となり、また、山形県にとりまして飛躍の年となりますことを切に願っております。

まだまだ寒さが続きますので、県民の皆様、記者の皆様、くれぐれもご自愛ください。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

☆フリー質問

記者

読売新聞の中戸と申します。あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。

今年の抱負についてですね、伺わせてください。ちょうど去年の 24 日の記者会見の際には、災害のない年であってほしいというところと、あとウェルビーイングの向上に力を入れていただきたいというふうに私は拝聴したんですけども、年を明けて改めて、今年どういう 1 年にしていきたいなというところを伺いたいなど。

知事

そうですね。午年であります。やはり県民の皆様と力を合わせて、山形県がさらに住み良い、そして訪れて楽しく過ごしていただける、そういう県にしていきたいというふうに思っています。

もちろん毎年思うんですけども災害のない年であってほしいなということと、県民の皆さんの幸せ、いわゆるウェルビーイング向上、このことについては今年もしっかりと取り組んでいきたいというふうに思っております。

記者

NHK の伊藤と申します。今年もどうぞよろしくお願ひします。

先ほどですね、インバウンド、観光対策についてお話をありました。看板とかのですね、多言語化、これは具体的に何か県として支援を考えいらっしゃることはあるんでしょうか。

知事

そうですね、多言語化していかないと、訪れた方々もせっかくいらしたのに理解できないということで、見ただけでは「良いな」と思ってもあとにストーリーとして残らないというようなことも指摘されておりますので、やはり名勝地、また観光地ですね、文翔館であります、駅前に降り立ったところでありましても、やはりいらしていただいた方が「ここはこういう場所なんだ」というようなことを御理解いただけるように多言語化していきたいなと思っています。

そういうことで観光業界の皆様、また市町村と一緒にになってですね、どういったことができるかというようなことで内部でも検討してもらっておりますので、一緒にになって前に進めていきたい。これは県内にいろんなところがありますので、一挙にというわけには、なかなか財源的にもいかないんですけども、ただ、業界、そして市町村の皆様と一緒にになってオール山形で進めていくというようなことで、その力を合わせて、財源も合わせてですね、できるだけ支援もどういったことができるのかということを考えながら一緒にになって進めていきたいというふうに思っています。

記者

山形放送です。今年もよろしくお願ひいたします。

先ほどの多言語化に関連してなんですかね、それは例えばキャプションを置いたりとか、文翔館にてもそうなんですかね、そのキャプションの文字の種類を多くするという、例えば英語であるとか、中国語、韓国語とか、そういうふうに多言語化して表記するということでおよろしいでしょうか。

知事

そうですね、表記するということがやはり基本だというふうに思いますけれども、あと、案内板と言いますかね、そういうところも多言語化すること。また、(スマホ等を)かざしてすぐ情報が手に入るような、それぞれの言語ですね、そういうこともできればいいというふうに思っています。

記者

もう1点よろしいでしょうか。先ほどあいさつの中で、アメリカによるベネズエラへの軍事作戦について言及されたんですけれども、具体的な影響として、今、知事ご自身で懸念されていることを教えていただいてよろしいでしょうか。

知事

例えば日本とか山形県にどういった具体的な、ということは現時点では分かりませんけれども、ただ、世界中ですね、力のある大国がなんでもしていいんだというようなことになってしまふと、無法地帯みたいになてしまうようで大変心配であります。やはり国際社会の秩序、そういうものを守って平和な社会を維持していくような、そういう体制と言いますかね、やはり全世界でそういうことをしっかりと取り組んでいただくというのが大事かなというふうに思っています。

そういう意味で、力があれば何をしてもいいんだというようなふうにならないように、大変心配をしております。

記者

力のある国というのは、例えばロシアによるウクライナへの侵攻であるとか、あとはガザ地区へのイスラエルの攻撃とか、そういったことを念頭に置いて今御発言されたということでおろしいでしょうか。

知事

そうですね。あと、ミサイルを撃つたり、いろんな国もございますので、国際社会はどうなっていくのか本当に不透明であります。常にやはり危機管理といったことにも意を用いながら、しっかりと山形県の平和を守っていければというふうに思っています。

記者

河北新報の渡辺と申します。あけましておめでとうございます。よろしくお願ひいたします。

あいさつの中でありました新品種の「ゆきまんてん」についてなんですかけれども、期待と言いますか、「コメ」というところが注目されている中で、どういう役割と言いますか、そういうところを期待しているかというところをお聞きできればと思います。よろしくお願いします。

知事

そうですね、農林水産部が詳しい説明はしてくれると思いますけれども、私としては、やはり非常に白く、大粒、おいしいというのが揃っております。しかも収量が1割ほどアップすると。高温耐性に優れて収量性もあるというようなことは大変素晴らしいお米だと思います。

年末ですね、生産者の方のお話もお聞きしましたけれども、とっても期待しているんだという話がありました。やはり流通・販売業界の方々の御意見も伺いながらではありますけれども、やはり山形県のつや姫、雪若丸、それに並ぶスターになれるように、存在感のあるお米に、また農業をけん引していってくれるお米になってほしいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。

すみません、続けて、「丙午」の迷信のほうについてもあいさつの中で触れられていたと思うんですけども、人口減少の中で出生率がガクっと下がってしまうということは地域社会にも大きな影響があると思うんですけども、逆にリーダーシップという面で捉えれば、今必要な側面もあるということで、もう一度こちらについてお伺いできればと思います。

知事

そうですね、昔ですと、江戸時代の「八百屋お七」というものが浮かぶんですけれども、今はそれが死語になっているのではないかと思います。丙午は強い人が生まれるとかね、そういうふうなそれは迷信であると私は思っています。やはり馬のように力強く前進する、そういう行動力があってリーダーシップのあるそういう人が丙午年の生まれの人だというふうにですね、正しく理解をして、今年出生数が下がるというようなことにならないといいなと思っています。

かなり高年齢の方々はね、昔のことを言うかと思うんです。そういうことは迷信なんだということで、できるだけ気になさらないで、むしろ行動力のある素晴らしい人が生まれるというふうにですね、考えていただきたいというふうに思っています。

記者

レビュー山形の倉内と申します。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

繰り返しになって大変恐縮なのですが、山形空港と庄内空港の滑走路延長も含めた機能強化の検討会議について、今年中に策定を目指すということで、やはりインバウンド需要を取り込むためにはどうしても空港の整備というのは必要不可欠だと知事のあいさつの中でもあったとおりだなと思って聞いておりました。

改めてインバウンド需要を取り込むための空港が為す役割・期待としてどんなことを求めたいかというのを改めて教えていただければと思います。

知事

はい。インバウンドももちろんなんですけれども、例えばチャーター便は大事ですけれども、チャーター便がなくとも今たくさんの方々が山形県に、台湾からもいらしてくださっております。さまざまなルートはあるんですけども、ただ、国際定期便というようなことになりますと、やはり滑走路の長さは問題になると思いますし、それからチャーター便でさえ問題になっていますので、定期便を将来作るためには、やはりここは機能強化としなければいけないというふうに思っていますし、あと、東日本大震災の時に、山形空港というのは津波が来ませんので、仙台空港の代替と言いますか、本当に東北の防災拠点空港みたいな役割を果たしたというのは、いまだに記憶に新しいところだというふうに思っています。

そういう側面もしっかり考えながらですね、いかにして山形県の空港をより機能的に向上させていくのかということが大事なんだというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。それに付随してもう1点質問させていただきます。

やはり先ほどのごあいさつの中にもありました通り、訪日客の中では中国人の方の訪日が減ってきてているというところで、山形県ではそんなに、台湾の方からの訪日が多いという

ことで、中国人の集団キャンセルなど大きな影響はないと去年の時点ではお伺いしているのですが、今年、年が明けて新たに懸念していることですとか、もしあれば教えていただけますでしょうか。

知事

はい。昨年の時点の情報しか持ち合わせておりませんで、また、行こうと思っていたのをやめようと、そういうことは情報として入ってこないんですね。ですから来た人の数で考えるしかないと思っていますけれども、やはり日中の関係悪化ということについては、だんだんと影響が、春節というような時にはどうなるのかなというふうに思っています。

しっかりと注視をしながら他の欧米といったところもですね、開拓をしながら、持続可能な観光立県にしていきたいというふうに思っています。